



6月のコラム ～1枚の葉っぱを描く・・・

奈良で大和の景色や伝統野菜、猫などを描いておられる画家の知人がいます。彼女が、緑いっぱいのお庭でウクライナ支援のチャリティー展を開催されました。絵画体験のワークショップにも参加。絵を描くなんて何十年ぶり・・・ドキドキです。

イングリッシュガーデンのようなお庭で、まずは描きたい葉っぱを一枚選びます。どれがいいかなという目で葉っぱを見るとあらためてその多様さに驚きます。草木の種類によって葉の形は様々で、色も濃い緑から黄緑、赤味や黄味がかったものと、どれも違います。その中から1本の草を選んで・・・と、え？同じ葉のはずなのに大きさも色も形も一枚一枚すべて違うのです。もちろん、しごく当たり前のことです。でもその当たり前や知っていることでも実際に体感すると、不思議なことに新たな感動があるのです。果たして一枚の葉っぱにこんなに注意を払ったことがあったかしら？絵を描く前のこのときめきだけで、今日がキラリと輝く一日になりました。

彼女が教えておられるのは、キミ子方式という絵画の方法。三原色と白だけで色を作り、描きはじめの一点を決め、その部分から隣、となりへと描き進めていきます。画用紙が余れば切り、足りなければ足して最後に構図を決めます。教えるときの最初の画材は、「もやし」だそうです。なぜ？それはいつでも用意でき、手のひらサイズの中に根っこ、茎、葉っぱがあり、植物の要素が全部そろっているからだとか。もよしの葉の「葉脈」ってご覧になったことありますか？

さて、私の絵の出来具合は、想像におまかせするとして・・・庭を歩き回って選んだ一枚の葉をじっと見つめ、葉脈を一本一本描き込んでいきます。その後で葉脈の端をつないで葉の輪郭を描きます。「線が短ければ足せばいいんですよ。」へっ！そうなの？画用紙の端っこに書いても、小さく書いても、後で紙の方をトリミングすることで、構図もばっちりです。1時間ほどでしたのでペン書きだけでしたが、じっと見つめるその一枚の葉っぱには、大きな世界がありました。

彼女のご息子は、芸人としてテレビや講演でもご活躍の榎森耕助さん。リップサービスとしてユニットを組んでおられますが、私は、赤Tシャツに赤ふんどし姿で、向き合うべき社会問題を面白く、わかりやすく解説してくれる「せやろがいおじさん」が大好きです。YouTubeで配信されています。『せやろがいのYou Tube ラジオ番組「コネラジオ」』では、おかん（せやろがい母）つまり、先ほどご紹介した画家の榎森彰子さんが、月1でゲスト出演されてます。時にかみ合わない？のんびりした会話に自然と笑みがこぼれ気分がなごみます。こんな親子関係もステキ！って思わせてくれます。この夏は、全国ツアー。7/8 京都、7/9 大阪でもコメディライブ開催。ぜひ応援してくださいね。

水田かほる 2022年6月

